

Stop Chronic liver disease 慢性肝臓病 CLD

ALT over 30 U/L



©NARA pref.
承認番号: 奈世第22-065号



第59回
日本肝臓学会総会

奈良宣言2023

☑ ALT>30で
かかりつけ医を受診しましょう

奈良宣言 2023

今年、月奈良市で開催された第59回日本肝臓学会総会で奈良宣言 2023 が発表されました。これは慢性肝臓病の早期発見、早期治療を目指すものです。具体的には健康診断等の血液検査で肝機能の数値であるALT値が30を超えていたらまずは、かかりつけ医を受診することが勧められます。

この宣言の目的は？

かかりつけ医による採血や腹部超音波検査などを受け、必要と判断されれば、さらに消化器内科におけるより詳しい検査を受けることで、肝疾患の早期発見・早期治療につなげるためです。

どんな原因があるのですか？

近年、肝臓病でも頻度が高かったウイルス性肝疾患（特にB型肝炎やC型肝炎）の治療法は進歩し、高い可能性で肝臓病から命を守ることもできる時代となりました。

しかし、肝臓は沈黙の臓器と呼ばれ症状が出にくいことが多いです。肝硬変や肝がんに行進して、疲れやすい、顔色が悪い、お腹が張ったなどといった症状で初めて肝臓病が見つかることも少なくありません。

最近、特に生活習慣を基盤とする脂肪肝（非アルコール性脂肪肝炎（NASH）やアルコール性肝疾患）などが進行して肝硬変や肝がんになることもあり、注意が必要です。

肝細胞が傷つくと細胞内のAST, ALTは漏れ出て、血管内に移行して数値が上昇します。

特にALTは他の臓器にあまり含まれていないため、その検査値の高さは肝障害を反映します。

（一般社団法人日本肝臓学会 ホームページ参照）



文責 後藤 隆